

# RPJ News

2023年 9月号

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

特定非営利活動法人(NPO法人)  
 精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project  
 〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801  
 毎月1回発行  
 発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守  
 E-mail [ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp](mailto:ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp)

## 内容

### \* ヴィレッジセミナー2013年 研修報告(7)

#### 7. 倫理

### \* ヴィレッジセミナー2013年 研修報告(7)

#### 7. 倫理

(デービッド)この時間は倫理についてお話ししたいと思います。

まずアンケート用紙を用意しましたので、皆さんアンケートにお答えください。

アンケートは皆さんの日々の行動に対しての質問です。各行動に対して、「絶対にダメ」「時には OK」「大抵は OK」「いつも OK」でお答えください。これは皆さんの組織に規則が有るか否かではなく、皆さん自身のお考えを聞かせて頂くものです。

また左側の質問は、各行動に対して皆さんの組織に規則や決まり事が有るか否かをお答えください。

**Ethical Dilemmas Questionnaire**  
 倫理的ジレンマに関するアンケート

**記入方法**

以下のすべての質問について、あなたは社会リハビリテーション・プログラムにおいて直接のサービス・スタッフであると想定してください。さらに「消費者」とは、あなたのプログラムに参加している個人であると想定してください。

- 以下の各質問について、あなたの特定機関が既に方針を設定しているかの有無にかかわらず、その質問に対する方針を機関が規定すべきとするあなたの考えを示すものを、左側の箱の中から一つ選び、チェックをしてください。この質問は、方針が何であるべきかを問うものではなく、この特定分野において機関側に方針を提供する責任があるかどうか、あなたの考えについて問うだけのものです。
- 以下の各質問について、問題がどのように対処されるべきかあなたの考えを示すものを、右側の箱の中から一つだけ選び、チェックをしてください。

方針 はい	方針 いいえ	問題	絶対に ダメ	時には OK	大抵は OK	いつも OK
		1.彼自身の人生に意味があるかどうかを苦悩している消費者が、あなたの個人的な哲学について尋ねてきました。あなたは個人的な宗教観の情報を共有しますか。				
		2.スタッフとして雇用された消費者が、プログラムに参加している別の消費者をデートに誘いたいと思っています。				
		3.消費者があなたと「仕事の後」に会いたいと求めてきました。あなたは彼/彼女と会いますか。				
		4.あなたがとても信用できると認める消費者が、あなたに2ドル貸してほしいと求めてきました。あなたは彼にお金を貸しますか。				
		5.週末に地元クラブでメンバー/スタッフのバンドが演奏します。メンバーとスタッフもコンサートに出席します。最低2ドリンクをオーダーする必要があります。あるメンバーがアルコール飲料を買ってもいいかと尋ねてきました。あなたは自分の意見を述べますか。				
		6.毎週行われる州営宝くじは最高5千万ドルです。オフィスではお金を出し合い、一緒に宝くじ券を買うことになりました。メンバーが仲間に加わりたくないと求めてきました。あなたは彼を仲間に入れますか？				

©Copyright 1992 The Mental Health Association in Los Angeles County

方針 はい	方針 いいえ	問題	絶対に ダメ	時には OK	大抵は OK	いつも OK
		7.あなたの私生活や、配偶者/恋人との口論などについて、あなたは消費者と気軽に話しますか。				
		8.元アルコール依存症患者であるという事実をメンバーに公にしているスタッフが、再発し、彼の仕事に影響を及ぼしています。あなたは心配しているメンバーらとそのことについて話をしますか。				
		9.消費者が首の凝りを訴え、マッサージをして欲しいと求めてきました。あなたはマッサージをしますか。				
		10.教会を探している消費者が、あなたの教会の礼拝に出席してもいいかと尋ねてきました。承諾してもいいでしょうか。				
		11.消費者の下品なジョークをおもしろいと思えました。あなたは笑いますか。				
		12.あなたは自分の人生についてとても悲しい気持ちになっています。あなたの悲しみに気付き、尋ねてきた消費者にあなたはこれを打ち明けますか。				
		13.あなたの趣味は競馬です。競馬の掛け方を学ぶことに関心を示す消費者が、競馬場と一緒にいきたいと尋ねてきました。あなたは彼を連れていきますか。				
		14.消費者がハグ(抱擁)を求めてきました。あなたは彼にハグをしてあげますか。				
		15.より多くのお金を稼ぐことに関心を示している消費者がいます。あなたは自分の車を週1回洗濯してもらい、彼にお金を支払うことを提案しますか。				
		16.テレビを買いたいと思っている消費者がいます。あなたの自宅に未使用のテレビがあります。あなたは彼に小売価格よりさらに低価格で売る提案をしますか。				
		17.とても性的魅力があるとあなたが思う消費者が、あなたのプログラムから脱落しました。1か月後、彼/彼女から電話があり、デートに誘われました。あなたはこの招待を受けますか。				
		18.酔前状態にあるあなたが知っている消費者が、旅行運転をしながら車で走り去るのを目撃しました。あなたは通報しますか。				

©Copyright 1992 The Mental Health Association in Los Angeles County

それではこの様なアンケートを作成した背景についてお話ししたいと思います。

1990年頃に皆さんにお渡ししたような内容の訴えが多く発生しました。そのためスタッフが、この様な内容に深く注意するように作成しました。アメリカでは問題になるような事柄を書き出していますが、日本で問

題視されるかは分かりません。でもこの様な事を頭に入れておくことは必要な事と考えています。

これらの質問で、皆さんの中で「これについて話し合ってみたい」ということがありましたら、進めていきたいと思えます。如何ですか？

(参加者 A) 13 番が気になります。

(デービッド) 趣味の問題ですね。貴方も競馬が好きですか？問題は「あなたの趣味は競馬です。競馬の掛け方を学ぶことに関心を示すメンバーが、競馬場に一緒に行きたいと尋ねてきました。あなたは彼を連れていきますか？」ですね。貴方はどの様に答えますか？

(参加者 A) 「時には OK」です。

(デービッド) どうしてですか？

(参加者 A) 掛け方を学びたいと言っていて、ギャンブルをしないと選んでいました。

(デービッド) ギャンブルをしないと選んだら連れていきませんか？そして相手によって連れていく人と行かない人を分ける事ができますか？

(参加者 A) ギャンブル依存症は怖いので区別します。

(デービッド) それでは私が貴方の担当する当事者、という設定でお話してみましよう。

(デービッド) 私は以前ギャンブル依存症だったということを知っていますよね。

(参加者 A) はい。

(デービッド) いま私はギャンブル依存症を治したいと思っていますが、競馬は大好きなので貴方が一緒なら少しだけ掛けることにしますので、連れて行ってくれませんか？

(参加者 A) 困ったな。

(デービッド) どの位なら掛けても良いですか？実は毎月 100ドル位お金は有ります。

(参加者 A) 生活費はどの位掛かっていますか？

(デービッド) 生活費を除いて 100ドル位余っています。

(参加者 A) 困ったな。

(デービッド) 100ドルの余裕が有るのですが、掛けてはダメですか？

(参加者 A) 貴方が言っていることは理解できるので担当者として寄り添ってあげたいのですが、お金に余裕がないなかでギャンブルをすると貴方が苦しい思いをすることになりかねないので、連れていくことは出来ません。

(デービッド) あまり余裕のないお金をギャンブルというカテゴリーに使うのは良くないということですか？

(参加者 A) 競馬は好きなのですか？

(デービッド) そうですとても好きです。どの馬が勝つかという興奮がとても好きです。

(参加者 A) それはハンバーガーを食べるときよりも興奮しますか？

(デービッド) そうなのです競馬が好きなのです。でもその様な気持ちを貴方と一緒にに行けば少し抑えられると思うので、一緒に連れて行ってください。

(参加者) 困りました。



(デービッド) 依存症というのは倫理面から考えると大変難しいところ有ります。5 番の問題を見てください。「週末に地元クラブでメンバー／スタッフのバンドが演奏します。メンバーとスタッフもコンサートに出演します。最低 2 ドリンクをオーダーする必要があります。あるメンバーがアルコール飲料を買ってもいいかと尋ねてきました。あなたは自分の意見を述べますか」これも殆ど同じ内容ですね。どの様に答えますか？

(参加者 A)この場合は「絶対にダメ」です。

(デービッド)この問題には幾つかのポイントがあります。最初はメンバーの選択についてです。私たちはメンバー自身がコミュニティで生活出来ることを目標としています。コンサートに行ったり競馬場に行ったりということは、普段皆さんが自由に行っていることです。そして私たちは色々な場面でメンバーに危害が加えられないかを何時も気にしています。私たちの仕事は、メンバーが何時も自分たちでリスクと利益を評価出来るようにすることです。この問題の場合、貴方はメンバーの病気の事を考えて、頼まれてはいないが「絶対にダメ」と考えている訳です。

最近「Harm reduction(危害削減)※」という言葉が良く使われるようになってきました。これは依存症の様な問題から危害を完全に排除のではなく、危害の状態を出来る限り少なくするという事です。この考え方は、「Abstinence(禁欲・禁酒・禁煙など断つこと)」とは別の考え方です。例えばアルコール依存症の人で完全にお酒を断つことが出来ない場合は、少しずつアルコールを制限して害を少なくするという事です。ビール6缶パックを2パック飲んでた人が1パックで止めるとか、ヘロインなど強い薬物を使って怒りを抱いていた人がカリフォルニアでは合法のマリアナ(大麻)に変えるなどです。

依存症でこれを完全に排除できない場合は、危害削減という目的で少しずつ制限していくということは、とても有効な手段です。

メンバーは自分の依存症を克服したいと思って積極的に来ている訳ですので、改善できる下地はあります。

時によって、ある人は連れていくが、この人は連れて行かないということもあります。しかしそれぞれに均等な機会を与え時間を取るということはとても重要なことです。

常にメンバーによる選択に委ねることが重要で、何時も私たちはメンバーを保護しよう、保護しようと考えているためメンバーが色々活動しようとしていることを制限している可能性があります。

Aさん、有り難うございました。

他に現在直面している問題をここで話し合ってみたいという方はおりますか？

(参加者 B)7番を話し合いたいです。

(デービッド)「あなたの私生活や、配偶者／恋人との口論について、貴方はメンバーと気軽に話し合いますか？」ですね。あなたはどの様に答えますか？

(参加者 B)「時にはOK」です。

(デービッド)他の方はどう思われますか？

(参加者 C)「時にはOK」です。

(デービッド)ダメの時はどの様な時ですか？

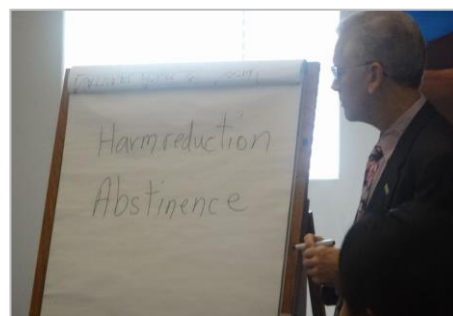
(参加者 C)内容によってですが、一人に話すことは他の利用者にも広がってしまうと思うのでリスクを考慮問題の無い範囲で話をします。

(デービッド)参加者の中で、ご自身の私生活の事、家族の事などをメンバーと話し合ったことが有る方いますか？3名いらっしゃいますね。メンバーの方に「パートナーの方は元気ですか？」など聞くことが有りますよね。すると「いま元気だよ」とか「いま喧嘩していて話していない」などと答えてくれますよね。

「あなたの家族は元気なの？」と聞かれたらどうしますか？

(参加者 D)私はメンバーに「私の家族の事は聞かないでね」と言ってあるので、質問されません。

(デービッド)と言うことは私自身の事は秘密だから公表しないとメンバーに行っているのですね。



※harm reduction(危害削減) : 個人に健康被害をもたらす依存症等を直ちに止める事ができない場合、それに伴う害や危険を出来る限り少なくすることを目的とすることで、直訳はharm(害)のreduction(低減)となります。

(参加者 D) そういう事になりますね。でもメンバーさんの悩みを聞いている時に、「私もその様なことが有ったな」程度の話はしますが、自分から話題を作るために話をすることは有りません。

(デービッド) それでは D さん、少し話し合ってみましょう。

私はあなたのメンバーです。私を 20 歳のメンバーだと思ってください。

D さん、私はいま彼女に交際を申し込もうと思っていますが、どの様に話して良いか分からないので何かアドバイスしてもらえませんか。

(参加者 D) そうですね。先ず男の人に言われたら嬉しいのは「何気なく話してもらえること」ですかね。

(デービッド) 何といえいいですか？

(参加者 D) 普通に「付き合っで」で良いのではないですか。

(デービッド) 断られるのが怖いです。

(参加者 D) 私も断られたことが有るけど、断られるのが怖いのは相手の事を守ろうとする気持ちよりも自分を守ろうとしているからなのかなと思います。

(デービッド) そうかも知れない。

(参加者 D) これまではどの様な関係でしたか？

(デービッド) さりげなく話してみたことは有ったけど、反応はなかったよ。

(参加者 D) じゃあ、また明日話してみたら。

(デービッド) D さんも告白されたことは有るの？

(参加者 D) もちろん有るよ。

(デービッド) その後、相手が何か困っているようなことは有りませんか？

(参加者 D) 他のメンバーと同じに対応するので、特に無いですね。

(デービッド) D さんは自分の経験も踏まえて、自分の事として丁寧に対応されました。これはこのメンバーさんにとってとても有意義な出来事なのです。この様に自分が傷つくという様なことを職員と共有すること、そしてこの事から生まれる何らかのパワーがあります。そしてこの 7 番の設問は、話し合いによって何らかのパワーが生み出されることを示唆しています。

私たちは専門家です。メンバーは専門家に対して悩みを打ち明けることで、何らかの進展を望んでいます。そして D さんが「もちろん有るよ」と答えたことで、相談したメンバーは D さんと人間として繋がったという満足が得られます。専門家としてよりも、同じ人間として接されたことは凄くポジティブだと思います。しかしメンバーを一人の個人として接してしまうことは、専門家としては非常に危険なことです。関係性はあくまで専門家とメンバーなのですから。この様に専門家であっても同じ人間として話し合うことはとても重要なことです。専門家とメンバー間には倫理という壁が有ることを常に意識しバランスを取っていかなくては行けないのです。

D さん、凄く良い話し合いでした。有り難うございます。

他に何かありますか？ E さん如何ですか？

(参加者 E) 最後の問題で、「酩酊状態にあるとあなたが知っているメンバーが、蛇行運転をしながら車で走り去るのを目撃しました。あなたは通報しますか？」です。

(デービッド) 通報しますか？

(参加者 E) とても迷いためらいますが、でも私は通報します。

(デービッド) 何をためらうのですか？メンバーが事故を起こすかもしれないからですか、それとも通報したことですか？



(参加者 E) これはいけない事なので通報はします。でも警察が逮捕したとき、障害の有る無しに拘わらず被疑者を人間として扱わないような思いを私が持っているので、通報して捕まった時の事を考えると、一瞬ためらってしまいます。

(デービッド) 警察が被疑者を不平等に扱うかも知れないからですね。

それでは少し状況を変えてみましょう。

道端に酔っ払いがいて車に乗って運転して行ったら、警察に通報しますか？

(参加者 E) 直ぐに通報します。

(デービッド) 一般市民の場合ですね。

(参加者 E) 本当はその様な場面に係わりたくは無いです。

(デービッド) 一般市民の場合とメンバーの場合と何か違いはありますか？

(参加者 E) 違いは無いです。

(デービッド) この問題は通報するかしないかではなく、相手が一般市民かメンバーかということを考えて欲しい問題なのです。酒酔い運転しているのが一般市民か、知っているメンバーか、ということで私たち自身にどの様な気持ちの違いがあるのかを考えて欲しいのです。

一般の人が酔っ払い運転しているのを見たら直ぐに通報するでしょう。しかし知っているメンバーが酔っ払い運転していたら通報しますか？そこに何か違いはありますか？という問題なのです。

(デービッド) ここでは **Mentalism** (メンタリズム) という言葉があります。

この設問では、精神障害があると分かっている人に対しても普通の人と同じように通報しますか？という事なのです。

ある組織ではメンバーに電子レンジは使わせないとところが有ります。理由はメンバーが使うと電子レンジが壊れてしまうからです。でも電子レンジは誰が使っても壊れるときは壊れますよね。

酔っ払い運転の場合、相手が誰であれ公共の安全に問題があるかどうかを自分自身で考えて行動を起こすでしょう。今迄の話で、競馬に連れていくやお酒を飲む話が出ましたが、精神障害が有るからと言って排除することは差別ということになります。

一つ良い例があります。カナダの女性がニューヨークに旅行で来ていました。実は彼女は 2 年前うつ病を発症していました。そしてその時入国審査で、医師の「大丈夫」という診断書が無いと入国できませんと言われていました。でもうつ病を経験した人がその後ずっと入国できないのはひどい話ですよ、これがメンタリズムです。

※ **mentalism** : 哲学または心理学用語で精神主義、心理主義という意味。行動主義と対極の立場で、精神的な感覚や思考過程に重きを置く考え方。

それでは次に何か気になる問題がある方はいますか？

(参加者 F) 8番が気になります。

(デービッド) 「元アルコール依存症患者であるという事をメンバーに公にしているスタッフが、再発し彼の仕事に影響を及ぼしています。あなたは心配しているメンバーらとその事について話をしますか」ですね。

(参加者 F) 私は実際その現場で起きていることは、関係している者として話をするべきと考えています。しかしどこまで話をするのかは考える必要があると思っていて、仕事に影響を及ぼさない範疇の事であれば話さなくて良いと思います。でも「大丈夫よ！」で終わることでは無いと思いますし、再度回復して仕事に影響を及ぼさないことを願います。

(デービッド) それでは F さん、私は元アルコール依存症のスタッフを知るメンバーという事で話し合います。

彼は元アルコール依存症でしたが回復してスタッフとして働いていますが、ここ数週間アルコールを飲んでいて勤務していないようです。私も依存症ですが回復を目指しているので、今の彼を見ていると凄く心

配です。彼の事で何か知っていることが有ったら教えてくださいませんか？

(参加者 F) 彼が仕事に来ていないから心配してくれていることは凄く良く解ります。そしてアルコール依存症から回復した彼を目標にしてくれていることは、とても嬉しいです。でも今この様な状態になっていることは事実ですね。私も心配しており彼には早く復帰して欲しいと思うので、様子を見ていきたいと思っています。

(デービッド) 彼は本当にお酒を飲んでいると思いますか？

(参加者 F) 多分少しは飲んでいると思いますが、仕事に来ない理由は他に有るのかもしれませんが。でも今それは解りません。

(デービッド) 凄く良い受け答えでした。私が心配しているといったことに対して、貴方も心配していると答えたことが良かったですし、彼のプライベートを守ろうとしたことは良いことです。彼がアルコール依存症だという事を公にしているからと言って、彼のプライベートを守らなくても良いという事ではありません。貴方が「彼はまたアルコールを飲み過ぎて仕事に来られなくなっています」という様なことを言わなかったのが良いところです。彼が勤務していないという事にメンバーは関心を持って良いのですが、職員は彼がまた依存症に戻ってしまったなどと話すことは良くない事です。

有り難うございました。

この様な話をメンバーからされた時、他の職員のプライバシーを話すのではなく「もし心配だったら直接彼に聴いてみたら」と返すのも一つの方法です。この答え方は情報が与えられなくてもメンバーを一人の大人として扱う事になるので傷つくことは有りません。

皆さん何か質問はありますか？

最後になりますが、メンタルヘルスの専門家として何かを縛る規則や倫理的なものは有りません。スタッフが抱える多くの疑問に対して答えを出す事は、神の様なことで全く不可能なことです。我々はスタッフの持つ疑問に対して、スタッフ各自が考え答えを出すことを奨励しています。

私たちは新しいスタッフに対して今回使った「倫理的ジレンマに関するアンケート」を実施し、我々と話し合う事で、我々がどの様にしてヴィレッジを運営しているかを理解して頂きます。

有り難うございました。これで倫理のセッションは終わります。

有り難うございました。



## 一 編集後記 一

協会の研修の中で、個人的には一番コアだと考えている内容になりました。日本の精神科医療の中で「常識、基本、原則」と言われることを、しっかり考え直すきっかけになったセッションでした。今でも、何が正解かは導きだせていませんが、自問自答を続けていられるのは、この体験からだと言っても過言ではありません。

あまりの猛暑のせいか、いろいろザワザワとしています。農業もこれまでどおりでは全く先にすすみません。何か、次の転機が差し迫っているのではないかと感じつつ、変革の好機に変えていきたいと思っています。

また、みなさんとの研修など企画したいと思います。ご希望など、ぜひお伝えください。(長野)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会